

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web pageは
こちらから



『そだちのねっこ』

～乳幼児期の遊びより～



【お花屋さんですよ～。お花はいりませんか？

～遊びを通した学びの芽生え～】

11月10日(金)、4歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。秋の自然物を使ってケーキ作りを楽しみ、ケーキ屋さんで売り買いする姿、乗り物の図鑑を見ながら、空き箱で車を作り走らせて遊ぶ姿、ヒーローやアイドルになりきるためのグッズを身に付け、踊ったりポーズを決めたりする姿など、いろいろな素材から自分で選んでイメージしたものを作ろうとする姿が見られました。自分のしたい遊びを見つけて、存分に楽しんでいることが子どもたちの笑顔や遊んでいる様子からうかがえました。



4歳児の様子

その中で、「お花屋さんやってますよ～」と呼びかけているA児とB児がいました。お花紙や折り紙を使って、立体や平面の色とりどりのお花を作り、売っていました。

保育者「すみません、花束ください」

A児(しばらく考えて)「たばですか？たばはないです」

保育者「そうですか～。それでは、3つをセットにしてもらえますか？」

A児「あっわかりました。すぐにできるので待っててください」

しばらくして…B児「できましたよ～」と、3つのお花をセロテープでひっつけた花束を渡してくれました。



保育者「ありがとうございます、綺麗な花束でうれしいです」

B児「はい、花束です！」

A児「あの～、お花がなくなってみんなにすぐに渡せなくなるので、ご飯食べたら返してくださいね」

保育者「わかりました、また返しに来ますね」

(遊びの後)クラスの話し合いでA児とB児が揃って「お花屋さんをして楽しかった」と伝えていました。

担任「いっぱいお花、売れましたか？」

A児「売れたけど、すぐになくなってしまっているので、買った人は返してください」

C児「そしたら、みんなで作ったらいいんちゃう？」

D児「いいやん！10個くらい作ったら、いっぱいになるやんな！」

A児「あ～、でもでも、みんなじゃなくてもいいよ。作りたい人きてね～」

B児「作り方、教えるから～」

～給食終了後の様子を覗くと・・・～

E・F児「Aちゃん、ここはどうやるの?」「セロテープ貼れたよ」

A児「ちょっと私、違うところ行ってくるわ」

E児「えっ?」「どうやって作るか、わからんやん」

F児「できてるお花、見たらいいやん!」「こうしたらいいんやな!」

E児「Bちゃん、これでいい?」

B児「いいよ。私がフワッとさせてあげるわ」手でやさしく包み込む…。

子どもたちが言葉でのやりとりをしながら、どんどんと遊びを進めていました。自分が作ったものが認められたり、頼りにされたりすることで、発言する声も大きくなり表情が生き生きとしていました。それは確かにその子どもの自信につながっていると感じる瞬間でもありました。

また、遊びを通した学びの芽生えの部分も見逃せません。幼児期の終わりまでに育ててほしい姿を考慮した保育者のかかわりや環境構成をすることで、『人への優しさ』『自分の考えを伝える力』『友だちとイメージを共有して遊びを進める力』などの育ちにつながったと思いました。遊びを楽しむ中で、『遊びから学ぶ』という育ちのねっこの重要性を実感しました。



特別支援教育コーディネーター研修⑤ 特別支援教育研修②



令和5年 12月4日(月) 午後3時 30分～午後5時に、特別支援教育コーディネーター研修⑤・特別支援教育研修②を行いました。講師は畿央大学大久保賢一教授で、研修テーマは「子どもたちの適応と成長を支えるポジティブ行動支援」です。

研修に使用したスライドの一部

<受講者感想>

- 他の子どもと比べるのではなく、子ども小さな変化に素早く気づき、褒めることが大切だと実感した。褒める内容も完璧にできた時だけでなく、目指す行動に近い行動ができたときに褒めていけるようにしていきたい。また、セルフ・マネジメントができるように、スモールステップを心掛けていきたい。
- 子どもの問題行動をしっかりと分析し、どうしてそのような行動が起きているのかを十分理解することが子ども理解につながると感じた。子ども一人ひとりに応じた達成度を設定し、考えていきたいと思う。褒めるタイミング



は、1日の振り返りを待つことなく、適宜実践していきたい。子どもの力を信じ、しっかり認めて、褒めて信頼関係を築きながらかわっていききたいと思う。

- ・「あめとムチ」ではなく、「あめとあめなし」という言葉がとても心に残った。肯定的に進めていくことにしている、「そのままだと●●できなくなるよ。」という言葉かけを耳にすることがある。自分もできるだけ「あめ」だらけにすることを心掛けていきたい。

保育のための基本研修③



令和5年12月6日(水)午後3時～午後5時に保育のための基本研修③を行いました。講師はBYBS 非認知能力育児コーチの東口るみさんで、研修テーマは「非認知能力を育てるために～子どもの自己肯定感を育む保育者のかかわり～」です。

← 研修に使用したスライドの一部

<受講者感想>

- ・「正解はありません。どんどん発表しましょう！」という雰囲気はとても素敵だと思った。自園の保育でも取り入れていきたい。
- ・「非認知能力」が大切であるということはよくわかった。今後さらに研修を積んで、積極的に保育に取り入れていきたい。
- ・日ごろから、子どもの姿を肯定的に多面的にとらえて、子どもが自己肯定感を失わないような声掛けや関わりをしていきたい。

さわやかルーム舞台発表 (表現活動)



令和5年12月15日(金)午後1時から「さわやかルーム舞台発表 (表現活動)」を行いました。この行事は毎年行っていて、今年度は「さわやか DE クイズ」という演目でした。中学1年生～3年生の生徒が、自分の好きなテーマについてクイズを出します。クイズの出題はスライドで行い、解答をペープサート劇で行いました。制作にあたっては、描画・スライド作成など、それぞれ得意な分野で分業を行いました。10月後半から準備を始め、途中期末テストの期間を挟んで約1か月間の取り組みの成果です。当日は多くのセンターの職員等がA・B・Cの札をもって回答し、大いに盛り上がりました。

生徒たちからは「大いに満足した」「観客の感動する声は聞こえたが、舞台の陰にいたので直接その様子を見ることができなくて残念だった。」などの感想がありました。普段あまり話せなかった仲間とも、この取り組みを通じて話をするなど、協働的な学びを行うことができました。

※ペープサート 「ペープサート」とは、「ペーパー パペットシアター (paper puppet theater)」の略で、紙に絵を描き持ち手を付けて作る「紙人形劇」のことです。

10年経験者研修③

令和5年12月22日（金）午後3時～午後5時に10目経験者研修③を行いました。講師は本センター山野元気指導主事で、研修テーマは「授業づくり 授業改善の推進【検証】—今求められている授業—」です。前回までの研修で練り上げた指導案をもとに各自が実践した結果を持ち寄り、今後の授業の在り方をグループで話し合いました。

＜受講者感想＞

- 授業実践の交流をすることで、先生方が子どものために愛情や熱意をもって実践されたのがよく伝わった。すばらしい発表をされた先生もあり、自分も負けてられないと感じた。
- ロイロノートを使っての意見交流はとても有効で、授業の中でももっと有効に使っていききたい。ICTは授業の効率を格段に上げていく可能性があると思う。
- 他校の先生の授業の成果と課題が知れてよかった。ロイロノートと紙のメリットデメリットを児童に考えさせたうえで、どちらを使うか各自選択させるというやり方は納得できた。自分の授業でも改善していきたい。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は12月から1月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）1月号

- 特集1 AI時代の学校教育
- 特集2 不登校の子どもの支援

「指導と評価」（日本教育評価研究会）1月号の特集はどちらも極めて興味深い内容です。まず特集1“AI時代の学校教育”です。もうそんな時代が来たのかと思ってしまいます。AIとはArtificial Intelligence（人工知能）の略ですが、ここで論じられているのは、“生成AI”についてです。広く一般に“生成AI”が報道されるようになったのは今年度からだと思いますが、あっという間に“必要論”が広まりました。紙面では学校教育への導入賛成論（必要論）と学校教育への導入反対論（不要論）が掲載されています。前者は高橋純教授（東京学芸大学・日本教育工学協会会長）の『AI時代の到来』（8ページ）という記事で、後者は酒井邦嘉教授（東京大学大学院）の『学校教育にAIは必要なのか—初等教育と中等教育を中心に—』（18ページ）という記事です。ここでは後者を先に紹介させていただきます。なぜかという、その方が“生成AI”とは何かということについて、はっきり説明がされているからです。酒井教授は「AIの産物は学問的な意味での生成ではなく、単なる「合成」に過ぎない。」と言い、「子どものうちからデジタル機器を使うことで、言語力や思考力・想像力の健全な成長が阻害され、安易な手段に頼る傾向が助長される。」と否定的です。一方、前者の高橋教授は「・・・想像以上に優れた回答が得られることが多い」、学習に関しては「途中でも何度でも繰り返してできる」ので「学習の順番を変化させる」と肯定的です。両者は大人社会における“生成AI”の利用については肯定的ではありますが、学校教育において必要なかどうかという点について意見が分かれます。文部科学省は2023年7月4日に教育での生成AIの利用について「暫定的なガイドライン」を示していますが、今後も“生成AI”の教育的効果については注目していく必要があります。（葭仲）

「道徳教育」（明治図書）1月号

- ・特集 徹底研究 「泣いた赤鬼」「足袋の季節」

「こころの科学」（日本評論社）1月号

- ・特別企画 セクシュアリティ 対人援助の新たな視点

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）1月号

- ・特集 ポストコロナ時代の新たな教育相談活動

「特別支援教育」（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課編集・東洋館出版社）冬号

- ・特集 教科等の指導における工夫と改善

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）1月号

- ・特集 「やってみよう！やってみたい！」を引き出すキャリア発達支援
～地域が教室、地域が学校～

「初等教育資料」（文部科学省教育課程課・幼児教育課編集・東洋館出版社）1月号

- ・特集Ⅰ 資質・能力の育成に向けた授業づくり3
ー学びに向かう力、人間性等の指導と評価を軸に②ー
- ・特集Ⅱ [図画工作]共同してつくりだす活動の充実

「中等教育資料」（文部科学省教育課程課編集・学事出版）1月号

- ・特集 高等学校における資質・能力の育成に向けた教育活動の充実①
〈国語，地理歴史，公民，数学〉

教育科学「国語教育」（明治図書）1月号

- ・特集 話合い指導 全解剖

教育科学「社会科教育」（明治図書）1月号

- ・特集 社会を見る目を育てる！「資料活用」学習ナビゲート